

■三浦真理：想い出は銀の笛 より

＜＜奏者紹介＞＞

今回初めて結成したフルートトリオです！！素敵な演奏をお届けできるよう頑張ります。

杉山絵麻、花山方子、吉見敦子（Fl）

＜＜曲目紹介＞＞

この曲は、変化に富んだ5つの小品から構成されています。今回は、その中から3曲をお届けします。

【Ⅲ．ブラック・インヴェンション】擬古典主義の主題が各パートに模倣され、展開されます。

バッハのインヴェンションを思いおこさせ、正確性が求められます。緊張感たっぷりです。

【Ⅱ．深紅のルビー】ポピュラー音楽の美しい響きの中、旋律が陰影を放ちながら魅惑的に舞います。

まるで恋をしていたあの時を思い出しているような……。とても甘酸っぱい雰囲気です。

【Ⅴ．ブルー・パステル】サンバ調の激しいリズムの連打が大変楽しく、3人が一つになって躍動的な主題を吹き、サンバホイッスルで締めくくります。題名の通り、青い空、白い雲、海を思いおこさせるこれからの季節にぴったりの曲です。

曲調が全く違う3曲をどうぞお楽しみください。

■ファルーカ、カフェ・デ・チニータス

＜＜奏者紹介＞＞ 道順憲一（Cb）：クラシックギターから始まり、吹奏楽では金管、高校時代に低い音域のコントラバスの魅力に憧れ、今はオーケストラで楽しんでおります。／ 小杉茂次（Cb）：我々の楽団Cbパートで大先輩であります。今回はフラメンコとの共演をお願いし、チャレンジされ、深みのある音がフラメンコのリズムを自然に感じさせてくれます。／ 木南利夫（フラメンコギター：賛助）：12歳よりフラメンコギターを始め、伊藤日出夫、エンリケ坂井、飯ヶ谷守康氏に師事。フラメンコの古典に重きをおいた演奏で、情緒のあるフラメンコを聞かせてくれます。／ 濱田吾愛（カンテフラメンコ：賛助）：カンテの面白さを教えて頂いた私の親愛なる友人です。音楽評論家の御父様の影響で幼い頃からフラメンコに親しんでおられ活躍されております。

＜＜曲目紹介＞＞

ファルーカ（スペイン民謡）：「ファルーカ」はガリシアの女の意味。北西スペイン、ガリシア地方の民謡が起源。この曲は静かなもの悲しさから始まり、だんだんと高ぶった気持ちが表現されており、トレモロのメロディが印象的です。そこから早いテンポになり、フラメンコギターの特有な奏法で貫く気持ちが表現されています。

カフェ・デ・チニータス（アンダルシア民謡）：アンダルシア料理は魚介類とデザート、世界的に有名なシェリー酒で知られています。フラメンコ音楽と闘牛の発祥の地であるこの土地にある、皆の集まるカフェ・デ・チニータスという店、料理とお酒でねぎらい、いろいろな人生を語らい、歌い（カンテ）、踊り（フラメンコ）、夜な夜な賑わう所であったようです。カンテ（歌）がこの室内楽で音楽になるか…想像が付きません。

■ハイドン：ロンドントリオ 第1番

＜＜奏者紹介＞＞

素晴らしいフルーティストとめぐりあい、お手合わせをお願いしました。明るく伸びやかな音色をお楽しみください。

奥タ美子（Fl1・賛助）、大槻郷子（Fl2）、松本由佳子（Fg）

＜＜曲目紹介＞＞

1794年に作られ、この時期のイギリス（ロンドン）での公演で大成功を納めた曲です。この公演では有名な交響曲「驚愕」「軍隊」「時計」「太鼓連打」「ロンドン」など（いわゆるザロモン・シリーズ）が生まれています。

第一楽章 Allegro moderato 生命力溢れる、明るく軽やかな楽章。2本のフルートの踊るような掛け合いが聴く人の心も弾ませます。

第二楽章 Andante ゆったりとしたテンポの優雅な楽章。穏やかな幸福感に満ちています。

第三楽章 Finale Vivace 軽快で駆け抜けるようなフィナーレ。全ての楽章に共通する明るい輝きを放っています。

■ロッシェニ：弦楽のためのソナタ 第1番 ト長調

＜＜奏者紹介＞＞

異色の4人組結成！“4種のスパイスをロッシェニ風にのせて”

安斉佳秀（Vn1）、笹原伸雄（Vn2）、藤井彩子（Vc）、斉藤恵（Cb）

＜＜曲目紹介＞＞

12歳のロッシェニ少年による天真爛漫な作品。本日は、全6曲からなる「弦楽のためのソナタ」より、もっとも明るく健康的な印象の第1番をお届けします。

意外にも弦楽合奏版の演奏機会が多いのですが、もとは変則四重奏のかたちをとっています。弦楽四重奏というと、バイオリンとヴィオラそしてチェロという組み合わせが一般的ですが、このソナタ集ではヴィオラが無く、コントラバスが加わり「変則四重奏」という訳です。室内楽ではもっぱら出番の少ないコントラバスがなぜ加えられたのかは謎ですが、いつもなら同じ声部をオクターブ違えて弾いているチェロとコントラバスが、それぞれの独立した動きをします。そんなユーモラスな低音に載せて、2台のバイオリンが軽快に駆け回ります。これが、とても難しい（らしい）。随所にある早いパッセージの掛け合い、是非お楽しみください。

第1楽章 Moderato 一素敵な何かが降ってくるような・・・予感一

第2楽章 Andante 一やさしい、大切な、淡い・・・想い一

第3楽章 Allegro 一この手に確かに握んだ・・・確信と喜び一

注）副題は、あくまでもイメージです。

余談ですが、44才で早々と引退したロッシェニは料理の道へ。自ら料理人となるばかりでなく、彼のレシピによく登場する「トリュフ」探しのための養豚業も営んでいたそう。現在もメニューに載っている「ロッシェニ風」とは、このロッシェニ少年、そのお方なのでした。

■モーリス・エマニュエル / クラリネット、フルートとピアノのためのソナタ Op.11

＜＜奏者紹介＞＞

このメンバーでの演奏は3回目になります。いつも「なんでこんな曲選んだの?!」と怒らない、優しい方々・・・感謝しております。

大槻郷子（Fl）、山本彬（Cl・賛助）、渡部智子（Pf）

＜＜曲目紹介＞＞

エマニュエルは1862-1938に生きたフランスの作曲家です。

パリ音楽院で作曲を学ぶとともに音楽史や古典音楽の研究に没頭し、さらにソルボンヌ大学で古典言語学を学び、この分野でも博士号を修得するという多才な人間でした。

作曲の分野ではドビュッシーを先取りして印象主義を築き上げましたが、その「新しさ」故に指導教官と揉め、ローマ大賞（奨学金付留学制度）辞退を余儀なくされました。しかし彼はめげずに音楽の道を探究し、母校であるコンセルヴァトアールの教授となります。メシアンやデュティユーは彼の門下生にあたり、音楽教育者としても大きな功績を残していますが、曲の方は全く知られていません。

1楽章：Allegro con spirit ドビュッシーの「海」を思わせる、明るく爽やかなのびのびとした曲調。さざ波のようなピアノに乗ってクラリネットが「メリーさんの羊」にも似たメロディーを奏でます。この楽章は、記譜上は4拍子と3拍子が細かく入り乱れているのですが、そんな忙しさを感じさせないおおらかな響きをもっています。

2楽章：Adagio 内省的で、ブルゴーニュ民謡のような旋律がクラリネットからフルートに、さらにピアノに引き継がれ華やかに展開した後、突如最初のテーマに戻り、沈鬱なムードに包まれます。

3楽章：Molto allegro ぴちぴちと跳ねる魚のようなリズムカルな曲。最後に1楽章のテーマが奏され、追憶の中に幕を閉じます。

■バッハ：弦楽三重奏曲による「ゴールドベルク変奏曲」ト長調 BWV988

＜奏者紹介＞ 滝口 修（Vn）、阪田 貞一（Vla）、田村 邦夫（Vc）

＜曲目紹介＞

対位法の名人にして、子たくさん、音楽家たくさんの家系。みんなに教えるために「クラヴィア練習曲集」を作曲しました。祈りのアリアに始まり、祈りのアリアに終わります。神をたたえるために作曲するのです、とおっしゃいます。アリアのあいだに30の変奏曲。

今日は、1, 2, 3, 8, 10, 30番を弾きます。最後の30番は集まった家族がワイワイ談笑している風景です。「ずいぶんしばらく、こっちさこい」とか「母さんの料理はきゃべつとカブばかり、肉はなし」とかの民謡を引用しているのだそうです。

■シューマン：ピアノ五重奏曲 変ホ長調 OP.44

＜奏者紹介＞ 成光直子（Pf：賛助）安斉佳秀（Vn1）、砂田正子（Vn2）、砂田俊彦（Vla）、富山辰夫（Vc）

＜曲目紹介＞

シューマンは、1842年9月から10月にかけてこの曲を作曲しました。1842年はシューマンの「室内楽の年」と言われ、3曲の弦楽四重奏曲とピアノ四重奏曲などの名曲が生まれています。初演は翌年の1月、妻のクララがピアノを担当してライプチヒのゲヴァントハウスで行われました。この時にベルリオーズが聴いており、非常に感動したと伝えられています。編成は、“ピアノ＋弦楽四重奏”の形です。弦楽四重奏という完成された楽器編成にピアノを加えることにより、厚みと色彩感が増しています。シューマンの室内楽曲の中では演奏される機会が多く“超名曲”と言っても過言ではないでしょう。冒頭の力強い主題と歌うような第2主題で聴衆の心をとらえてしまいます。

全4楽章のうち、今回の演奏会では以下の3つの楽章を演奏します。

第1楽章 Allegro brillante

第2楽章 In modo d'una marcia. Un poco largamente

第4楽章 Allegro ma non troppo

＜楽器略称ご紹介＞

Vn:バイオリン、Vla:ピオラ、Vc:チェロ、Cb:コントラバス、Pf:ピアノ
Fl:フルート、Cl:クラリネット、Fg:ファゴット

港北区民交響楽団 室内楽コンサート Vol. 7



～ プログラム ～

三浦真理/想い出は銀の笛より（フルートトリオ）
ファルーカ、カフェ・デ・チニータス（コントラバス、フラメンコギター、カンテ）
ハイドン/ロンドン・トリオ（フルート、ファゴット）
ロッシーニ/弦楽のためのソナタ第1番
エマニュエル/クラリネット、フルートとピアノのためのソナタ
バッハ/ゴールドベルク変奏曲（弦楽三重奏版）
シューマン/ピアノ五重奏曲より

2014年7月13日（日）14:00 開演
於 横浜市大倉山記念館 ホール

主催：港北区民交響楽団
横浜市大倉山記念館

港北区民交響楽団 今後の公演のご案内
第55回定期演奏会 2015年1月31日（土）みなとみらいホール
小澤和也指揮 チャイコフスキー/交響曲第3番 他